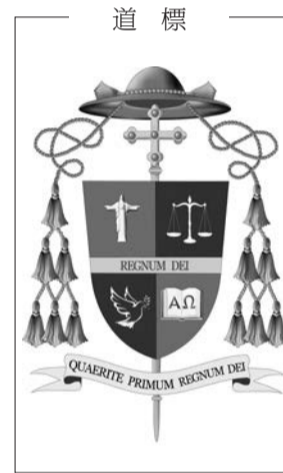




〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



鹿兒島教区司教
中野 裕明

年頭教書

「2025年聖年」を

有意義に過ごしましょう

鹿兒島教区司教 中野 裕明

教区の皆さま、新年明けましておめでとうございます。旧年中は皆さまのお祈りとご協力によって、教区として、着実な歩みができるたのではないかと思います。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、年頭にあたり、聖年を有意義に過ごすために二つの事をお話しします。一つ目は、「巡礼」の奨励です。

巡礼とは一般に、「日常的な空間を一時的に離れて宗教の聖地や聖域に参詣し、聖なるものに、より接近しようとする宗教行動」(ウキペディア「巡礼」参照)とされています。

巡礼は、イスラム教徒によるメッカやメディナ巡礼や、仏教徒による四国のお遍路等が有名です。カトリックではローマ、イスラエル、サンチャゴの3大巡礼地がありますが、その他にもルルドやファチマなどマリアさまのご出現の聖地があります。そのような聖地に日常的な空間を一時的に離れることによって確かに霊的なものを再発見できます。

右記の巡礼は個人で行うことも可能ですが、教会共同体として参加することを奨励します。各小教区は「(C)」「(A)」巡礼する

ところで、聖年の大勅書は、そのような遠くに行かなくても聖年の恵みが得られるように、自分の教区に巡礼指定教会を設けるよう指示しています。

鹿兒島教区では①鹿兒島カテドラル・ザビエル教会、②名瀬聖心教会、③徳之島母間教会の3か所を巡礼教会に指定しました。

さらに、鹿兒島教区行事として認定されたモーゼの律法の内容を具体的に実践する祭司族が書「です。言い換えれば、

イスラエルの民がその社会生活の中でどのようにして神の意思を反映させることができるかが示されています。

また、「この49年間のうちに生活の困窮のため、売却した人や土地や財産などが自分に戻ってくる」という特権を得られます。さらに興味深いことは、これらの社会生活上の決め事などは、同胞や滞在者や寄留者、さらに異邦人間での取り決めだということです。

また、「この49年間のうちに生活の困窮のため、売却した人や土地や財産などが自分に戻ってくる」という特権を得られます。さらに興味深いことは、これらの社会生活上の決め事などは、同胞や滞在者や寄留者、さらに異邦人間での取り決めだということです。

また、「この49年間のうちに生活の困窮のため、売却した人や土地や財産などが自分に戻ってくる」という特権を得られます。さらに興味深いことは、これらの社会生活上の決め事などは、同胞や滞在者や寄留者、さらに異邦人間での取り決めだということです。



また、「この49年間のうちに生活の困窮のため、売却した人や土地や財産などが自分に戻ってくる」という特権を得られます。さらに興味深いことは、これらの社会生活上の決め事などは、同胞や滞在者や寄留者、さらに異邦人間での取り決めだということです。

また、「この49年間のうちに生活の困窮のため、売却した人や土地や財産などが自分に戻ってくる」という特権を得られます。さらに興味深いことは、これらの社会生活上の決め事などは、同胞や滞在者や寄留者、さらに異邦人間での取り決めだということです。

また、「この49年間のうちに生活の困窮のため、売却した人や土地や財産などが自分に戻ってくる」という特権を得られます。さらに興味深いことは、これらの社会生活上の決め事などは、同胞や滞在者や寄留者、さらに異邦人間での取り決めだということです。

2025年 聖年の恵みを味わいましょう

鹿兒島教区の聖職者 (敬称略)

- 教区長 中野 裕明
- 名誉司教 郡山健次郎
- 総代理 泉 浩二
- 法務代理・事務局長 霧島 彬
- 鹿兒島地区
 - 末吉卓也神父 (始良教会)、朴鎮亮神父 (指宿教会)、鄭法鍾神父 (加世田教会)、李秉徳 (鴨池教会)、小隈憲士 (ザビエル教会)、盛 克志、福崎英雄 (谷山教会)、鈴木康由 (種子島教会)、泉 浩二 (玉里教会)、ジュオン・ヴァン・ドック (溝辺教会)、貴島丈弥 (紫原教会)、ファン・ミン・アン (吉野教会)
- 大隅地区
 - グエン・ホグ・タム (鹿屋教会)、サンタマリア・ジュセッペ (国分教会)、オローフ・オ・ベルナルディーノ (志布志教会)、霧島 彬 (垂水教会)
- 北薩地区
 - 宋診旭 (阿久根・出水教会)、福崎英雄 (入来教会)、橋口啓悟 (大口教会)、メニッヒ・テヨドル (川内教会)
- 奄美大島地区
 - 内野洋平 (大笠利教会)、申賢圭 (瀬留教会)、郡山健次郎 (大能教会)、朴昶奎 (小宿教会)、柄尾泰英 (名瀬聖心教会)、松永正男、山浦義春、久保芳一 (古田町・古屋教会)
- 徳之島地区
 - ウオラ・ジョヴァンニ・ドン・ボスコ、石田 望 (母間・和泊教会)
- その他
 - 小川靖忠 (善き牧者学園)、山口好信 (出向)、田原 章、永山幸弘、寝占敦之 (静養)
- 終身助祭団
 - 川口 茂 (加世田教会)、桃蘭淳一郎 (鴨池教会)、石神秀人 (阿久根教会)、小島芳武 (川内教会)、池上利男 (母間教会)

聖人の宣教魂を学び、重久助祭を追悼

聖フランシスコ・ザビエル司祭の祝日に

日本宣教の守護者聖フランシスコ・ザビエル司祭の祝日にあたる12月3日（火）、鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂で同聖人を霊名に頂く中野裕明司祭の霊名を祝うとともに「聖人の宣教にかける熱い思い」を学ぶミサがささげられた。

またこのミサには午後からの全司祭集会（コンベンツ）にも多くの聖職者が集うこともあって、6月20日に帰天したアウグスティヌス重久知司終身助祭（母国教会）を教区として追悼するミサともなった。



午前10時30分から始められたミサでは、教区各地から17人の司祭と3人の助祭が駆けつけ、30人余りの信者とともの中野司祭を囲んだ。

マルコ福音書朗読後の説教でまず重久助祭の人となりを紹介した中野司祭は、「洗礼を受けて神の似姿（かたどり）となつた者は、他者のために生きる者となるように洗礼の恵みを活用しなければならぬ。タ

レントのたとえにある頂いた恵みを土の中に埋めて使えないのは駄目なこと。私たちは頂いた信仰を、そしてキリスト教を発展させなければならぬ」とメッセージを送った。

ミサの閉祭の前には重久

助祭の追悼式があり、地上の幕屋から永遠の住みかへと旅立つた重久助祭の遺影に司教によって聖水が振りかけられ、献香がなされた。その後は司祭団全員で「サルヴェレジナ」を歌って、重久助祭の永遠の安息を祈った。

この日のミサには、徳之島から信徒が駆けつけたほか、重久助祭の長男・豊さんの姿もあった。

豊さんは父・重久助祭に

ついて「物静かで、家族のために一生懸命働いてくれた父でした。そのため小さい頃は一緒に過ごす時間は少なかったように記憶しています。私も幼児洗礼ですが、とにかく父は熱心な信者だったと思います。終身助祭にして頂いたことに對しては、神さまと信者の皆さんの助けのおかげだと感謝の日々でした」と重久助祭の生き方を振り返ってくれた。

聖年や年間行事予定等を確認

12月開催のコンベンツ

12月3日（火）、ザビエル教会主聖堂と教区本部2階会議室を会場にコンベンツが開催された。鹿児島教区の司教、教区・修道会司祭、助祭が集い、参加者は現地参加22人、オンライン参加5人の合計27人だった。

午前10時30分からの共同司式ミサでは聖フランシスコ・ザビエルの祝日にあたって中野司祭の霊名をともに祝うとともに今年の6月20日に徳之島で帰天したアウグスティヌス重久知司終身助祭の追悼も行った。こ

のミサには重久助祭のご子息に加え、徳之島の信者数人も参列し、司祭の助け手として徳之島の宣教司牧のために尽力した助祭の死を悼んだ。

12時からの昼食を挟んで午後1時より、教区本部事務局長の霧島彬神父の司会で教区本部2階会議室にてコンベンツが行われた。

中野裕明司祭の招きによるはじめの祈りで開会し、事務局からの報告・連絡の後、まず、来年献堂50周年を迎える種子島教会への献金に対する返礼品の扱いについて、種子島小教区主任司祭の鈴木康由神父より説明があった。

次に霧島神父より2025年度カトリック鹿児島司教区年間行事予定表（案）が示された。

続いて同じく霧島神父が2025年通常聖年「希望の巡礼者」に関連して、①教区レベルの聖年は今年のこと、②12月29日（日）から来年の12月29日（日）までであること、③12月29日（日）に午後5時からザビエル教

個展を開いた 吉野の川崎浩さん

11月29日（金）から12月9日（月）まで、鹿児島市泉町の「ギャラリー白樺」で吉野教会所属の洋画家、川崎浩さん（83歳）の個展が開かれた。

美術教師だった川崎さんは郡山中学校勤務時代、45歳のとき吉野教会で当時主任司祭だった郡山司教から受洗した。きっかけは遠藤



周作とメキシコ大地震だったという。受洗後はロンドンの日本人学校に勤務するなどし2000年に退職、それ以後は作品作りに邁進してきた。

今回の個展には「イエスの誕生」や「エルサレム入城」など聖書の世界を描いた作品も数点展示されていた。作品の一つ「懺悔の少女」は洗礼名（アシジのフランシスコ）に因んだアシジを訪れた際の風景を描いたものだった。

「短信」

▼聖書週間に聖書の講座 聖書週間に（11月17日、24日）の23日（土）と24日（日）、ザビエル教会（主任司祭・小隈神父）ではザベリオ宣教会のフィリピン・レナト神父（大濠カトリック会館）を招き、聖書の講話を実施した。

受講者たちは2日間で3回あった講話で福音書の読み方やルカ福音書、使徒言行録の味わい方を熱心に学んだ。

キリスト教一致祈禱週間

1月18～25日

「すべての人を一つにしてください」という最後の晩さんでのイエスの祈りに耳を傾けるわたしたちはまた、折にふれて目に見える一致を示すように求められています。それは、ともに祈り、支え合うことによって、神がすべての人の救いのためにイエスを遣わしたことを「世が信じるため」です（ヨハネ17・21～23参照）。

キリスト教諸教会の間で毎年1月18日から25日に定められている一致祈禱週間は、このことを強く意識する機会となるでしょう。この一致祈禱週間のために、教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会は1968年以来、毎年テーマを決め、「礼拝式文」と「8日間のための聖書と祈り」を作成しています。日本ではカトリック中央協議会と日本キリスト教協議会が共同で翻訳し、小冊子を発行しています。



2025年通常聖年「希望の巡礼者」に関連して、①教区レベルの聖年は今年のこと、②12月29日（日）から来年の12月29日（日）に午後5時からザビエル教

CAU NGUYEN HANG NGÀY

Bạn không có thời gian cầu nguyện? Bạn phải học, phải làm việc kiếm tiền trang trải cuộc sống, chu cấp cho gia đình, người thân...Bạn nói rằng: đến việc chăm sóc chính bản thân mình, bạn còn không có giờ, thì thử hỏi thời gian đâu mà nhớ Chúa.

Bạn nói đúng lắm. Cuộc sống vật lộn với cơm áo gạo tiền khiến bạn không còn giờ để nghĩ đến việc gặp Thiên Chúa. Cầu nguyện trở thành điều gì đó xa xỉ trong đời sống tất bật hàng ngày của bạn.

Nhưng có bao giờ bạn tự hỏi: nếu chỉ lo miếng cơm hàng ngày, mà thiếu đi tương quan với Thiên Chúa, thì linh hồn mình sẽ ra sao? Bạn lại có thể trả lời: chẳng sao cả, mọi sự vẫn tốt từ trước đến giờ đó thôi. Thật vậy, chẳng sao cả, nhưng điều đó chỉ là cái bạn thấy bên ngoài, còn trong sâu thẳm nội tâm của bạn, chắc không dễ nhìn ra. Vì cái đời của linh hồn khác lắm so với cái đời thể xác, nó không làm ta rời tay chân như khi đối lương thực, nhưng là một cái chết từ từ nếu không tình thức sẽ chẳng thể thấy được.

Cầu nguyện là đối thoại, là chuyện vãn với Thiên Chúa. Cầu nguyện không hề tốn kém thời gian như bạn nghĩ. Vì là đối thoại, nên ngắn dài tùy lúc, tùy hoàn cảnh. Chúa cũng chẳng quy định ta phải gặp Chúa bao lâu, cũng không ép bạn nghĩ việc để chạy đến nhà thờ ngồi đó thảnh thơi với Ngài giờ này qua giờ khác.

Nếu bạn không có giờ đến với Chúa, hãy để Chúa đến với bạn trong nhịp sống hàng ngày.

Bạn không thể vừa cầu nguyện vừa làm việc đúng không? Nhưng bạn vẫn có thể vừa làm việc vừa cầu nguyện đó thôi. Nếu bạn thấy mệt mỏi khi đi a những kinh nguyện dài lê thê, hay suy niệm những đoạn Tin Mừng khô khan, thì thay vào đó là những lời nguyện tắt nhẹ nhàng, chuỗi Mân Côi gần gũi...

Bạn có thể nói chuyện với Chúa mọi nơi, mọi lúc, vì Chúa hiện diện sống động trong khắp cõi: trong bạn, trong tôi, trong mọi cảnh huống hàng ngày...Biết tình thức qua cầu nguyện ta sẽ gặp Chúa.

Chúa như người bạn đứng ngoài cửa và gõ, ai nghe và mở thì Chúa sẽ vào nhà người đó, dùng bữa với người đó...(Kh 3,20)

Bạn hãy mở cửa đón Chúa vào nhà. Chắc chắn nhà bạn sẽ được chúc lành; đời bạn sẽ vui, và lòng bạn sẽ bình an đi qua giông bão cuộc sống.

大笠利にモダンな新聖堂完成

12月8日、喜びのうちに献堂式を終える

12月8日(日)大笠利教会(主任司祭・内野洋平神父)では、中野裕明司教を迎えて新生なった聖堂の献堂・落成ミサをささげた。

大天使聖ミカエルを保護者とする同教会は奄美北部に位置し、赤木名や喜瀬など6箇所の巡回教会を持つ。信徒数は小教区全体で約500。建て直し前



教会の外観④と献堂式⑤



の聖堂は1972年に建設されたもので、11月2日に今は亡き糸永真一司教によって祝別・献堂された。それから44年が経過した2016年、老朽化に加え、塩害による亀裂が聖堂のあちらこちらで確認されたため、信者たちは建て直しを決断し「大笠利教会建設委員会」を設置、201

8年から本格的に建設資金調達を開始した。しかしながら建設資金の調達は、2020年頃からの新型コロナウイルス感染症蔓延もあって、バザーなどの収益も減少したため、各地に募金を呼びかけるなど協力を求めている。調達は、苦労の末建てられることとなった新聖堂は、斬新でモダンなデザインで著名な松山建築設計室にその設計・管理などを依頼し、2024年2月の土地の祝福式から着工され、この献堂式を迎えた。

12月8日、午前11時から式典では、まず聖堂新築に伴ってこちらも整備された鐘楼が祝福された。鐘楼にかかるアンジェラスの鐘は、1926年にアヌシー市(フランス)で造られたもので、ピオ・ゲネット神父が教会創立25周年

に、カナダの両親や諸外国の信者の寄付をもとに取り寄せたもの。戦時中に競売にかけられなくなった鐘だが、縁あって1986年に大笠利教会に戻ってきた。以来、38年間平和を告げる鐘として親しまれてきたものである。

鐘と鐘楼の祝福のあとは採光見事な聖堂内で献堂のミサがささげられた。新聖堂は収容人員130、前聖堂の3分の2ほどの広さのことだが、現代的なデザインながら祈るための落ち着いた空間で満ちている。尚、この日のミサには沖縄から押川名司司教も駆けつけてくれた。

報告 カリタス鹿兒島

カリタス鹿兒島では11月13日(水)、インドネシア火山噴火緊急支援としてレデンプトール会母間修道院を通じて50万円を、またカトリック名古屋教区に「のど地震支援」として100万円を送金した。

奉獻生活者と共にお祈りするミサのご案内

日時.. 2025年2月1日 (土) 14時
場所.. カテドラル・ザビエル教会
司式.. 中野裕明司教様
小隈憲士神父様
フランシスコ教皇様は、「通常聖年」希望の巡礼平和への道、と宣言なさいました。

奉獻生活者には「聖年への道を歩む奉獻生活」の中で、次のように促されておられます。

① 貧しい人々の叫びに耳を傾ける。
② 被造物の管理と保護。
③ すべての兄弟姉妹と連帯して、奉獻生活の聖年を過ごすように。

鹿兒島教区では、毎年2月2日(主の奉獻の祝日)の前後に、教区内の奉獻生活者が集まって召命の恵みを感じながら、新たな召命の恵みを願って祈っております。

新型コロナウイルス感染症5類に移行しましたので、教区

会と催し 1月

- 1日(水) 神の母聖マリア
 - 5日(日) 主の公現
 - 7日(火) みことばを祈る集い・ザビエル教会・10時
 - 11日(土) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
 - 12日(日) 主の洗礼
 - 15日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
 - 18日(土) キリスト教一致祈禱週間・25日
 - 19日(日) 年間第2主日
 - 20日(月) キリスト教一致祈禱会・ザビエル教会・15時
 - 22日(水) 鹿兒島教区司祭大会・21日
 - 22日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
 - 26日(日) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
 - 26日(日) 年間第3主日(神のことばの主日)
- ▼世界子ども助け合いの日(献金)
「世界子ども助け合いの日」を呼びかける教皇庁児童宣教師は、幼子イエスの保護にゆだねたいとの希望から、聖なる幼子の会または幼子宣教会とも呼ばれます。その目的は、「子どもたちを助けている子どもたち」をモットーに献身する、キリスト者の子どもの活動の頂点であるこの日、彼らは自分たちだけでなく世界中の子どもたちの幸せを願って祈り、犠牲をささげ、支援を行います。日本では、各教会に加え、カトリック系の幼稚園や保育園の大勢の子どもたちが献金に手紙や絵を添えて協力しています。当日の献金は全世帯からローマ教皇庁・福音宣教師に送られ、世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。

【司教日程】8~9日 常任司教委員会(東京)、15日 中野アカデミー、19日 志布志教会、20~21日 司祭大会、22日 中野アカデミー、25日 鹿屋幼稚園、29日 中野アカデミー

祈りの意向

【祈祷の使徒会】
教皇 教育を受ける権利
日本の教会 聖年

イグナチオの霊操⑱

紫原教会主任司祭 貴島丈弥

霊の識別

イグナチオの霊操で最も大切な要素の一つが「霊の識別」であり、特に第一週と第二週において必要で、霊的前進に伴ってそれぞれ識別が異なります。

私たちの、特に霊操者の心の内には三つの「声」があるとされます。

まず一つ目は自分自身の「声」であり、「自分の自由な望みから生まれるもの」である。他の二つの考えは

外からのものであり、一つは善霊から、一つは悪霊から来る(霊操32)「ものです。シラ書のことばを見てみましょう。

「主が、初めに人をお造りになったとき、判断は、彼の手に委ねられた。欲するならば、お前は戒めを守り、喜んで、忠実にそれを実行することができ。主は、お前に向かって、火と水とを置かれた。どちらか欲しいほうに、手を差し伸

べよ。人間の前には、生と死とが置かれている。どちらが良いと思うほうが、人には与えられる」(シラ書15・14~17)。

霊操者の前には常に、キリストの旗を選ぶのか、ルシファールの旗を選ぶのかという選択肢が置かれています。

敵である悪霊は、わたしたちの霊の状態を知り尽くして、鈍感な場合はさらに鈍感に、誘惑に敏感な場合は極度に敏感にしようと攻撃してきます。

小罪に対して鈍感な霊魂には大罪に対しても鈍感にさせ、小罪と大罪と変わらぬ感覚で大罪をも犯させ

るように仕向け、大罪の状態が当たり前となるほど霊魂を鈍感にさせます。

一方で、罪に対して敏感な霊魂には、罪ではないようなささいな思い、言葉、行いのうちにも罪があると考へこませようとしてます(霊操349)。後者は、「霊操」では「疑念」とも呼ばれ、しばらくの間は霊的成長に大きな利益をもたらすとされています。

それは、罪と思えるすべての自分自身の思い、考へ、言葉に対して敏感になり、どんな小さな罪からも離れようと霊魂を清めるからです(霊操348)。

しかし、それが悪霊によ

参考文献

Miguel Ángel Fiorito,
Cercare e trovare la
volontà di Dio

屋久島シドゥッティ神父上陸記念祭

教区神学生 久山 元太郎

2024年11月23日(土)、午前9時半より午後2時半まで、カトリック屋久島教会にて、今年で39

回目を迎えた「シドゥッティ神父の上陸記念祭」が開催された。シドゥッティ祭は約40年前、屋久島町(当時は屋久町)の主催で始



められた。その数年後からは鹿児島教区と屋久島町とで交互に主催してきたが、今回は初めてNPO法人やくしま未来工房の主催で行われた。鹿児島教区からは、中野裕明司教、霧島彬神父、鈴木康由神父をはじめ屋久島教会の信徒3人、種子島教会のシスター2人(マリアの宣教師フランシスコ修道会)、他の小教区

からの5人が参加した。他教区からの参加は4人だった。この日は晴天に恵まれた



ジャンベの演奏

こともあり地元の方々の参加が多く、親子で参加される人たちの姿も見られた。会場では屋久島教会の建物の裏側のスペースを利用し、中央に参加者が座るための椅子が多数並べられ、その周りを出店のテントが囲み、小物やお弁当などが販売されていた。

シドゥッティ祭のイベントの部分が終わった後、午後3時から屋久島教会で、中野司教司式、霧島神父、鈴木神父の共同司式でミサがさげられた。信者でない参加者は全部で20人ほどだった。

翌日の11月24日(日)午前9時から屋久島教会で王であるキリストの祭日のミサがあり、中野司教が司式された。参加者は10人程だった。中野司教は説教の中で、世の終わりに私たちが裁く方は全能の神ではなく、かつてピラトによって裁かれた「人の子」、イエス・キリストであることを指摘された。

「密行」最後の伴天連シドゥッティの著者で、NPO法人やくしま未来工房理事長の古居智子さんが今回のシドゥッティ祭の趣旨説明をさ

された。古居さんによると「これまで毎年、記念碑(屋久島教会から海岸に向かって徒歩で数分下ったところにある)前広場で催しをしてきたが、今回は子供たち、町の人たちみんなが楽しめるような催しを目指した」とのことだった。

また、シドゥッティ神父については、教皇庁から派遣された高位聖職者だったことや「禁教下の日本だったが、ちゃんとキリスト教について説明すれば理解してもらえらるだろうと考え日本に来た」ことを話された。

種子島教会主任で屋久島教会の担当司教である鈴木神父は終わりの挨拶で参加者に「シドゥッティ神父は日本に来て後悔したと思いませんか?」と問いかけ、信仰のためにすべてを捨てることの意義を語った。

尚、この日の午前中、中野司教は屋久島教会の高齢の信徒夫婦宅を訪れ、お二人にご聖体を授与された。

シドゥッティ祭ミサでの中野司教説教(要旨)

今年初めてNPO法人「やくしま未来工房」によるイベントと一緒にシドゥッティ祭を実施し祝っている。その中で私たちはシドゥッティの心、信仰をしっかりと見つめよう。

シドゥッティの特徴は「遣わされた」と。彼は教皇の代理として、最後の宣教師の活動から70年余り過ぎた日本の信者のために遣わされた。モーセが迫害に苦しむイスラエルの民の救いのために遣わされたことと重なる。

シドゥッティの熱意と同様に、彼が日本で出会った困難にも目を向けよう。特に儒教・朱子学の発想をもつ新井白石と、キリストへの信仰を土台とするシドゥッティの相互理解の難しさは、現代の日本での宣教の困難とも共通するものがある。親子の孝愛に信仰を優先させるシドゥッティの姿勢は白石には理解できなかった。同時に、シドゥッティと白石の間に相互に芽生えた尊敬の心は、困難の中にあっても共に歩むことを通して、信者でない人々との協力関係の中で福音を広めていく「現代の宣教」の姿を現しているのかもしれない。



親子のしんご

今回はゆるしの秘跡のことを考えてみましょう。

ゆるしの秘跡とは洗礼を受け

た後に犯した罪を赦してもらった後、罪が赦されるためには良心の糾明、痛悔、告白、赦し、償いの

五つが必要であり、どれを欠くこともできません。罪の赦しを得るために一番重要なことは痛悔です。犯した罪を悔いるだけではなく、再び罪を犯さない

と堅く決心しなければなりません。これを難しい言葉で遷善(せんぜん)の決心と言います。

ゆるしの秘跡を通じて罪が完全に赦されるためには償いが必要です。この償いは告解室を出て直ぐにしなければならぬことです。ゆるしの秘跡を受ける人々の痛悔が本物であれば、愛そのものである神様に償いを果たす心の

ゆるしの秘跡について「教会」が赦すこと、つまり「しな

くてもいい」とすることが免償です。少し前の世界史の教科書では「教会が免罪符を発行した」といったことが書かれていました。教会が発行したものは免償符であり免罪符ではありません。教会についての理解が欠けていると大事な点を誤解してしまうことになるのです。

「罰」が科せられます。この罰を「教会」が赦すこと、つまり「しな